

第 4 回土浦市総合企画審議会 議事録

- 日 時：令和 3 年 1 1 月 1 8 日（木） 1 3 時 3 0 分～1 4 時 3 0 分
 - 場 所：市役所本庁舎 3 0 1 ・ 3 0 2 会議室
 - 出席者：
 - [有識者会議委員（13人）]
藤川会長、藤井副会長、吉田委員、下村委員、勝田委員、細谷委員、松井委員、
中川（喜）委員、今高委員、玉根委員、栗原委員、堀越委員、梅澤委員
 - [土浦市（13人）]
東郷副市長、栗原副市長、入野教育長、川村市長公室長、羽生総務部長、
塚本（隆）市民生活部長、塚本（哲）保健福祉部長、加藤こども未来部長、
佐藤産業経済部長、岡田建設部長、望月教育部長、鈴木消防長、
飯泉都市計画課長（船沢都市政策部長代理）
 - 欠席者：
 - [有識者会議委員（2人）]
円子委員、中川（弘）委員
 - 事務局：佐々木政策企画課長、富田主任政策員、小川政策員
 - 配布資料：
 - 資料 I - 1 第 3 回土浦市総合企画審議会議事録
 - 資料 I - 2 第 3 回土浦市総合企画審議会での主な意見とその対応について
 - 資料 II 第 9 次土浦市総合計画フロー図
 - 資料 III 第 9 次土浦市総合計画（案）
 - 資料 IV 第 9 次土浦市総合計画資料編（案）
 - 参考資料 第 4 回土浦市総合企画審議会説明概要
-

1 開会

【事務局説明】

2 会長あいさつ

- ・今日でこの会議も4回目となった。この間、委員の皆様からは様々な貴重な御意見を頂き、また、市の側からも真摯に対応していただいたと思っている。おかげさまで、総合計画案は最初のものに比べると練られてきているのではないかと思う。いよいよ大詰めで、今後はパブリックコメントも予定されているので、ぜひ活発に御意見を頂き、より良い総合計画ができればと思っている。御協力をお願いしたい。

3 報告事項

(1) 第3回土浦市総合企画審議会議事録

【事務局説明】

(2) 第3回土浦市総合企画審議会での主な意見とその対応について

【事務局説明】

4 議事

(1) 第9次土浦市総合計画（案）について

【事務局説明】

【委員】

- ・計画について、数値がどうということではないが、提案される側、見る方からすると、基準年、あるいは、目標年が各項目でバラバラになっているのは、どれだけ良くなったか比較するのにわかりづらい。これは、各項目を持ってきた計画や統計において結果が分かる年が異なることから、どうしてもこのような形になってしまうのか。

【事務局】

- ・指標については、資料I-2でもお示したように、コロナの状況、社会情勢の劇的な変化という点を踏まえて作成させていただいたが、基本的に総合計画では市の各分野の方針を示しており、その下に個別計画があるという構成になっている。そのため、進行管理は、基本的には個別計画である程度行っていきたい。その上で、今回の指標に関しては、原則個別計画に位置付けているものから、基本目標ごとに全体を網羅するものをピックアップして設定させていただいた。市の最上位計画である総合計画を見直す際には、各個別計画の進捗状況を踏まえて、こちらを弾力的に動かせるように設定したところである。

【委員】

- ・例えば、「待機児童数」について、待機児童は令和6年度までに0人を目指すと記載があるが、0人になればその先はないわけで、10年計画としてその先の目標はないのか。随時改正するということではあったが、どういうタイミングで更

新されていくのかというのは、誰が決めていくのか。この委員会で決めるわけではないのか。

【事務局】

- ・ 総合計画については、議会での議決事項となっていることから、指標については、資料編として分けさせていただいた。指標については、今お話ししたとおり、個別計画を策定する際に、内部で検討し、また、外部の委員の意見も伺いながら、決定していくものであり、総合計画の指標については、これを踏まえた形で置き換えていきたいと考えているところである。
- ・ 今お話のあった、「待機児童数」の成果指標の考え方については、待機児童数が0人になった後も、毎年0人を継続することが大事であると考えている。一度0人になったからといって、次の年に2人、3人と増えてはならないことから、0人を継続することが目標となる。

【会長】

- ・ 総合計画の方が上位の計画であるとする、個別計画の数字が総合計画に入ってきて、また、この数字も変わりますというのは、理屈としてはおかしい気がする。総合計画で大まかな数字の目標を定め、個別の計画で検討していくというのであれば構わないが、少し位置付けが曖昧なような印象を受ける。その点はどのようにお考えか。

【事務局】

- ・ 総合計画の指標に関しては、個別計画に位置付けたものを全部持ってきたというわけではなく、基本目標の全体を統括するような指標をバランスよく抽出したところである。
- ・ 今回の総合計画は、基本構想と個別計画、その下に実施計画があるが、まずは大きな考え方である基本構想を見直したところである。成果目標については、個別計画が実際今進行している状況もあるので、現時点では総合計画には個別計画に位置付けてあるものを引っ張ってきており、今後個別計画で進行管理を行い、個別計画を逐次見直すタイミングで総合計画にも個別計画で見直した内容を反映できるような形としたいと考えている。

【会長】

- ・ 質問の趣旨をよく理解していただけていないと思うので、厳しい目標を掲げてほしいと言っているわけではなく、総合計画が本来上位計画であるならば、個々の数値も総合計画の中で決められていくものであるのが普通の考え方であるように思う。

【事務局】

- ・ 今回の指標については、個別計画に基づいているものではあるが、「合計特殊出生率」や「社会移動数」など、基本的には、国や県の大きな指標を中心に引っ張ってきており、実際は、総合計画の指標になり得る大きな指標を中心にピックアップしたということである。

【委員】

- ・ まず、フローを示すことで全体は見やすくなった。個別の実施策の目標値は、これから成果を見直すために必要なのかもしれないが、要は個別のものを積み上げて、この総合計画全体として何をどういう風にしたいのかというところがない

から、今のような質問が起きるのではないか。一回目の会議の中で、一番の問題であるということで議論した人口減少について、フロー図にはどこにも入っていない。「夢のある、元気のある土浦」で土浦は何を目指していくのかというところが分かりにくい。提案としては、フローに示した将来像の中に、「人が集う」、「人が集まる」といった表現を入れてしまって、個別のものはここに入っていないという位置付けにしてはどうか。

【事務局】

- ・ 総合計画の構成としては、大きな目標値である将来人口数を定めた上で、これに基づく将来的な土地利用の考え方を示し、この土地利用を図っていくためにどのような事業展開をしていくかといったことを、主要な事業となるリーディングプロジェクトを始め、まとめている。このように、最上位計画として大きな考え方をまとめた総合計画に基づき、各個別計画の中で、更に詳細な目標値を設定し、施策を展開していくという考えであることについては、御理解いただきたい。

【委員】

- ・ 内容が本編に入っていることは理解しているが、その要素を表現してほしい。

【事務局】

- ・ フロー図の中でという話であれば、フロー図は、本編にも掲載される点に留意しながら、御意見を踏まえ、可能な範囲で再検討したい。

【会長】

- ・ 指標の数値があちこち見ないと出てこないのはよくない。同じようなことを繰り返す形でもいいので、表現については、工夫していただきたい。

【委員】

- ・ 会長と今御発言いただいた委員の御意見と同じことかもしれないが、フロー図では、リーディングプロジェクトとして4つのテーマがあり、その中で2つ、3つと方針が示されている。できれば、この計画では、その方針の下に、何年間かわ変わらないレベルの目標値を決め、フロー図にも入れていただき、最初に御説明いただいた細かいものについては、各個別計画のままで見ていってはどうか。市民の方々には、リーディングプロジェクトの目標値をフロー図に入れ、最初に目が入るようにする。そういった形の方が受ける側からすると理解しやすいということを皆さんは言われているのではないかと思う。

【事務局】

- ・ 住みよさランキングみたいに全国での位置付けが分かるものが入れば一番分かりやすいとは思いますが、リーディングプロジェクト全体を受けるような目標値設定が可能かという点で難しいと考えている。
- ・ 総合計画自体市の全部の事業を網羅しているものであり、リーディングプロジェクトについても、一つ一つ範囲が広い。そういった中で大きな目標を示すのは難しいと考えたことから、8つの基本目標ごとに示させていただいた。先ほども御説明したとおり、人口などの大きな目標については、本編で示させていただいたが、フロー図に出ていないということもあるので、そういったところはフロー図でも示していきたい。

【副会長】

- ・ なかなか難しいとは思いますが、10年後に将来目標人口12万8千人を達成するた

めに、例えば、子供は割合や人数としてこのくらいいて欲しいとか、そのために教育環境がこうなっていると良いとか、本来、リーディングプロジェクトの部分は将来目標人口とつながりがあるはずで、そのところをもう少し具体的に見たいというのが皆さんの御意見だと理解している。さらに、細かく個別の部分については、この8つの基本目標に紐づく個別計画が、それぞれの中で取り組んでいくという関係なのだと思う。そこがないままに、個別計画から持ってきた指標が並んでいて、しかも、目標年も個別計画の見直しと共に変化させていくとなると、個別計画リードで数値が変わっていくように見えてしまっている。数値を出すのが難しいとしても、説明の仕方でも補える部分があると思うので、例えば、将来目標人口を達成するために、こういう方法で、こういう分野に力を入れていき、そのためにこういった個別計画がつながってのこの数値であるといったような流れをこの資料に書いていただけると分かりやすくなるのではないかと思います。

- ・ また、今挙がっている指標が8つの基本目標のそれぞれに書かれていることを必ずしも網羅しておらず、所々選ばれていて、なぜ、今回これが選ばれているのか分からないし、例えば、スポーツの分野では指標も個別計画もなく、このまま忘れ去られてしまうように思えてしまう。事務局の説明で、指標等については、適宜戻りながら見直していくという理解をしたので、まず、そういったつながり方の部分について説明があると、こういった指標も安心して見られるようになると思った。

【事務局】

- ・ 先ほども御説明したが、総合計画は最上位計画で議決事項となることから、計画の進行管理の部分については、柔軟に動けるようにと考え、指標等については資料編として分けて、お示ししたところである。
- ・ 今回の皆様の御意見を踏まえ、将来目標人口の部分もフロー図に入れさせていただく。さらに、リーディングプロジェクトごとに固定で動かさない代表的な指標を設定し、フロー図の中を示すこととし、併せて、資料編の指標については、なぜこの指標にしたのか、設定理由を明記することとしたい。

【委員】

- ・ 合計特殊出生率について、実際に大事なのは率を上げるのではなく、生まれる数自体が問題なのではないかと思う。そこで、母数の影響もあると思うが、令和6年の1.55は、数としてはどのように移行するとお考えか。これは自然増も社会増もあると思うが、そのあたりは何か考えてこの数値が出ているのか。

【事務局】

- ・ ただ今の御質問につきましては、令和元年度に策定した第2期土浦市まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」「総合戦略」において、合計特殊出生率とそれに対応する出生者数等をシミュレーションしており、合計特殊出生率が上昇したとしても、母数が少なくなっていくので、年少人口自体は減少幅を抑え、年少人口の割合の方を上げていくことを目指すことを方針としている。「人口ビジョン」では、合計特殊出生率を上昇させることで年少人口の割合を2060年には現状11.5%であるものを13.7%まで回復させる推計をしている。また、年少人口自体については、2020年で40,636人であるものを、2060年には36,000人程度というところまで減少幅を抑えるように設定しているところ

ろである。

【委員】

- ・ 今の説明で、母数が大事という考えは同じであると理解した。では、母数をどのように確保するかといった話になった場合に、例えば、経済的な支援をする等の優しい施策が沢山並んでいて、ありがたいことではあるが、例えば、その母数となり得るべき方々がこの地域を選ぶかどうか非常に大事なところである。それに対する施策も色々書いていただいているが、例えば、59頁の雇用の安定について、雇用はないと困るが、そもそもどういったものに魅力を感じるのか、例えば、市外に出ずとも働けるとかいった魅力的な雇用ややりがいのある仕事の創出も非常に大事だと思うので、そのあたりも検討いただければと思う。実数自体は、いかに出生率を上げても、なかなか現実は厳しいという認識でよいか。

【事務局】

- ・ おっしゃられるとおり、実数自体の減少は避けられない状況で、仮に、合計特殊出生率の人口置換水準が2.07と言われているが、2.07まで回復したとしても、人口減少は引き続き続いていくと考えている。

【委員】

- ・ 「夢のある、元気のある土浦」を実現するには、人口減少社会なので、既存の産業で売上げを伸ばすには、M&A等を考えないといけない。市町村についても、人口を増やすなど、様々な分野を活性化させるには、土浦市単体で考えても、なかなか難しい部分も必ずある。市の総合計画なので、広い話は難しいかもしれないが、市民に元気のある茨城の県南の中心都市だという気概を持たせる意味でも、例えば、防災や災害対策にしても、水道、下水道や今回のコロナ対策においても、広域的・流域的に対処していかなければならない課題がどんどん増えてくる中で、土浦はこの地区のリーダーとして引っ張っていくんだというメッセージが感じられるようなイメージがこの計画でも出せればよいのではないかと考えている。

【事務局】

- ・ 本市のリーダーシップについては、前回御説明したとおり、県南の中心都市として、観光面や広域バス等の分野において、近隣市町村や離れた市町村とも連携して、様々な取組を行っているところである。また、前回の委員の御意見も踏まえ、本編の「本市の現状を踏まえた課題の取りまとめ」のうち、37頁の「(6) 効率的・効果的な行財政運営と広域連携の推進」の結びの部分で、「拠点性を担う本市は、県南の中心都市として、リーダーシップを発揮しながら、周辺自治体とそれぞれの強みを生かした広域での連携による効率的なまちづくりを推進していく必要がある」と、課題の部分において、本市の県南地域におけるリーダーシップの役割の必要性について明記したところである。

【委員】

- ・ この部分は、前面に出てくるほうが良い。

【会長】

- ・ 記載するだけでなく、もう少し工夫していただければと思う。

【委員】

- ・ 資料Ⅲの4頁の第3節計画の進行管理について、「その都度見直しを検討することで、総合計画の着実な推進を図ります」と書いてあるが、実際に1年1年見直

しを行うのか。レビューの仕方が問題であって、レビューがあって、その後もう一度再検討していくということになるのか、あるいは、問題点があったらどのようにどこの部署で検討を行うか、そういったことが大切なので、レビューを毎年やるのかやらないのかというところをお聞きしたい。前の計画もそうだったが、いわゆるP D C Aのサイクルを運用するのであれば、運用方法をしっかり決め、市の全体の計画のレビューをしっかりとしていかないとだめなんだろうというように感じており、この部分での記載内容が不足していると感じる。

- ・ 資料Ⅲの46頁の土地利用イメージ図について、国道6号と常磐線を基軸にして都市軸として、都市計画を推進していく、更に、スマートインターチェンジの整備を推進していくということを説明しているのだと思うが、国道125号からおおつ野へ向かう国道354号の開発についても基軸になる道路があるのではないか。このあたりの考え方を伺いたいと思う。
- ・ 資料Ⅳの8頁の基本目標8の指標である「公共交通不便地域面積」について、令和3年末から令和7年末までの間に、3.24㎢しか少なくなならない。「公共交通不便地域面積」については、個別計画である「地域公共交通計画」が現在策定中であると思うが、目標にしては減り方が小さすぎないか。公共交通やコミュニティ交通の見直しを始めたばかりだが、もう少し積極的に捉えていただきたい。

【事務局】

- ・ 計画の進行管理については、毎年実施していくことを考えている。さらに、リーディングプロジェクトについては、進行管理の結果をホームページなどでお示ししていきたいと考えている。
- ・ 資料Ⅲの46頁の土地利用イメージ図については、道路の基軸について、国道125号や国道354号の記載を追加していく。
- ・ 公共交通不便地域の面積については、資料にも記載があるとおり、令和4年から5年間の「土浦市地域公共交通計画」を現在策定中である。その中で、公共交通不便地域、人口密度が30人以上の地域を中心に、公共交通、コミュニティ交通を導入していこうということで現在計画をまとめているところである。そういった地区が市内に板谷、並木、乙戸南といった地区を含めて7地区あり、人口密度がある程度高い地域の不便地域面積を減らしていくのが合計で13.24㎢ということで、来年度から取組を進めていこうということである。

【委員】

- ・ 先ほどの「公共交通不便地域」については、5年間で13.24㎢を減らすということで、もう少し増やしてほしいという気はするが、こちらが勘違いしていた。
- ・ P D C Aサイクルについては、なぜ1年ごとにレビューをし、見直しをすると書けないのか。やはり、基本計画の中で、見直しをすることがしっかりしていないと進んでいかないように感じる。そのあたりをもう一度教えていただければと思う。
- ・ 国道125号や国道354号については、記載するだけでなく、どのように利用するのかも少し考えていただきたい。

【委員】

- ・ 文章中の言葉遣いについて、一例として資料Ⅲの38頁など、「時代の流れに応じて」という言葉が頻繁に使われているが、論理的に考えれば、「時代の変化を

捕まえる」という意味合いを示すべきであって、「時代の変化に応じて」といった表現にしないと全体的に主体性が感じられないので、変更していただきたい。

【事務局】

- ・ この部分については、前回の委員の御意見を踏まえ、「時代の流れに応じて」と「新たな地域の魅力を生み出す」といった表現を加えたところである。他のページにも同様の表現があり、御意見のとおりかと思うので、訂正する。

【委員】

- ・ 今皆さんの発言を聞かせていただいて、市民の目からとして、基本目標8つを掲げていただいているが、そのためにそういうことをするのか、その前の段階の部分が市民として知りたいという部分がある。

【事務局】

- ・ 今回、総合計画では、分野ごとの考え方を示したもので、個別具体的話が出てこない。先ほども御説明したとおり、この下に個別計画があり、また、その下に実施計画がある。実施計画については、3か年計画で毎年ローリングで見直しを行うものとなっており、今策定をしているところであり、年度内又は年明けに広報紙等でお示しできればと考えている。

【委員】

- ・ 先ほど、PDCAがなされているかという話もあったが、私は昨年、「まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」「総合戦略」の会議にも参加させていただいて、人口減少、土地利用など、こちらに出てきている委員の皆様が問題視されていることは、全部去年もその会議の意見で出ていたと思う。でも、やはり何の変化もなく来ているのが現状だと思う。去年も同じように委員の方から意見があったと思う。それで何が変わったのかとずっと聞いていて思った。
- ・ また、「時代の変化」ということもあったが、コロナになって子供たちはすごく大変な思いをしているのに、何の変化もない。やっと、今回パッドが配られ、学校も始まると思うが、魅力として、テレワークやそういうものも、現時点でつくば市と比べると何の変化もない状況で、つくば市はどんどん取り入れてやっている。朝の受入れについても、土浦市は密を避けるべきところを先生たちが体温チェックをしたりしている。一方、つくば市は、パソコンやスマホも使ってやっている。その時点で後れを取っているのは、皆さん御存じだと思うので、素早い対応をお願いしたい。

【事務局】

- ・ 子供たちの教育環境の事例ということで、タブレット端末の活用等についてお話を頂いたが、御案内したとおり、子供たちの教育環境という面では、大きな変化があり、一人1台パソコンを2学期から使い始めて、現在も持ち帰りをしながら一生懸命対応しているところである。お隣のつくば市の例もあったが、本市も同様に今取り組んでいるところなので、徐々にではあるが、ますますそういった活用の部分はこれから進んでいくと思っている。

【委員】

- ・ リーディングプロジェクトの「基本目標1 心豊かに住み続けることのできるまちづくり」を目指すに当たって、現在は子育て世代のお母さんたちが出ていってしまうのは、今言ったようなIT部分など、土浦市の環境が悪いからではないか。

一方で、つくば市はどんどん入ってきており、土地もちゃんと利用しているというところが大きな違いかと思う。

- ・ また、保育所待機児童数や、充実した子育て支援など、色々な施策が掲げられているが、小学校や高校など、子育ての対象は未就学児だけではない。そういうところもちゃんと見てほしい。ひたちなか市やかすみがうら市も、幼稚園・保育所・学校が連携してプロジェクトが進められている。一方、土浦市は全く進められていない。他の市では、年長さんが小学1年生に上がる際に、接続の方もどんどん取り入れてやっているが、土浦市はやっていない。市でそういうことをやってくれないと、なかなか保育園だけで学校に問い合わせることは難しい。子供の目線で考えられていない部分もあり、またそれも時代に取り残されていっているのではと思う。牛久市も接続に力を入れていると思っていて、そういうのも市で取り入れてくれるといいかなと思う。
- ・ また、「公立の保育所がリーダーとなって」という点も気になるところであるが、子供が少ないので、市がリーダーシップをとってくれないと、民営の幼稚園・保育所は置いていかれてしまうのではないか。公立の保育所だけで接続をしてよいのか。そういった点も考えていただけると、子供達がもっともっと成長していくのではないかと思う。また、御家族も、土浦市はいいなと感じてくれるのではないか。

【事務局】

- ・ 小学校への接続の話があったので、お答えさせていただきたい。周りはやっているのに土浦市はできていないじゃないかという御質問については、なかなか一般の市民の方への周知ができていなかったのは事実かと思うが、土浦市も小学校への接続ということで、就学前教育を行っている。国の方では、就学前教育の重要性を鑑みて、プログラム作りを行っているところであるが、土浦市はそれに先駆けて事業を行っており、幼稚園や保育園の方に土浦市独自のプログラムを提供しながら、小学校へスムーズに上がれるように徹底して取り組んでいるところである。周知不足なところがあったかもしれないので、十分に説明していきたいと思う。

【委員】

- ・ やっていない所とやっている所がある。きちんとやるなら、公平に、公立だけでなく、全部の保育園、全部の保育所、全部の幼稚園、全部の子供へ、そのようにできるとよいと思う。

【事務局】

- ・ 市としても、公立・私立に限らず全体として進めていくべきだと考えており、そのように取り組んでいるところである。

【会長】

- ・ 委員のお一人として、経験されたことに基づき、おっしゃっていただいていると思うので、ぜひ詳しく個別に聴いていただきたいと思う。

(2) その他

【会長】

- ・ 本日この場で頂いた意見等を基に、最終的な案を取りまとめさせていただきたく、その案については、私に御一任いただければと思う。また、今後、広く市民の御意見を聞くため、パブリック・コメントを実施したいと思うがよろしいか。それでは、パブリック・コメント実施要領案を配布してください。

[第9次土浦市総合計画（案）に係るパブリック・コメント実施要領（案）の配布]

【事務局】

- ・ パブリック・コメントの実施要領案について簡単に説明させていただく。趣旨としては、先ほど会長の方からお話があったとおり、第9次土浦市総合計画の策定に当たり、「土浦市パブリック・コメント手続に関する要綱」に基づき、計画案を公表し、広く市民の皆様の御意見を募集するものである。
- ・ 意見の募集期間については、令和3年12月16日（木）から令和4年1月12日（水）の4週間を予定している。
- ・ 公表・閲覧については市のホームページで周知するとともに、市の政策企画課又は情報公開室、各支所・出張所及び各地区公民館で案を閲覧することができるようになる。
- ・ 意見を提出できる方については、市内に住所のある方若しくは通勤・通学をしている方又は市内に事務所等のある個人・法人その他の団体の方となる。
- ・ 意見の提出方法としては、持参・郵便・FAX・電子メールいずれかの方法によって、募集期間中に氏名・住所・連絡先を御記入の上、提出していただくことになる。
- ・ 頂いた御意見については、市の政策企画課で整理し、次の審議会の方で御報告させていただいた上で、市のホームページ等で公表することになる。

5 その他

【事務局】

- ・ 今回の会議は、コロナ感染拡大の観点から限られた時間での会議であったため、その他お気付きの点があれば、意見書を11月24日（水）までに御提出いただきたい。
- ・ 第9次土浦市総合計画（案）については、本日委員の皆様から頂いた御意見・御指摘等を踏まえて、資料の修正等を行い、パブリックコメントを実施させていただく。
- ・ 次回の審議会は、令和4年2月10日（木）午前9時30分から、市役所本庁舎2階男女共同参画センター研修室1・2で開催を予定している。

6 閉会

以 上